

〔 横浜市民ギャラリーあざみ野 〕

平成 29 年度業務報告及び収支決算

〔 公益財団法人横浜市芸術文化振興財団 〕

※ 文中の事業欄において、
 ●：主催事業。○：共催事業を示します。
 ※ 文中の達成指標、達成状況欄において、
 □：定量的指標。■：定性的指標を示します。

1 施設の概要

施 設 名	横浜市民ギャラリーあざみ野
所 在 地	青葉区あざみ野南一丁目 17 番地 3
構造・規模	鉄筋鉄骨コンクリート造地上 3 階・地下 1 階
敷地・延床面積	敷地面積4,283㎡ 延床面積7,899㎡／専有面積1,975㎡
開 館 日	平成17年10月29日

2 指定管理者

団 体 名	公益財団法人横浜市芸術文化振興財団
所 在 地	横浜市中区山下町 2 番地 産業貿易センタービル 1 階
代 表 者	理事長 澄川 喜一
代表者設立年月日	平成 3 年 7 月 10 日
指 定 期 間	平成 27 年 4 月 1 日から平成 32 年 3 月 31 日まで

3 指定管理に係る業務総括

(1) 基本的な方針の総括

【指定管理期間中の使命】

横浜市が進める「文化芸術創造都市の全市展開」における地域活性化のモデルケースとして、指定管理期間第 3 期の基本コンセプト「アートでつなぐ横浜らしいまちづくり」の実現に向け、横浜市北部地域での存在感を高め、より一層のまちの魅力・活力の創出に取り組みました。

【総合的な方針】

1 アートで横浜らしいまちづくり

横浜らしい特色のある芸術文化を横浜の北部地域から発信し、まちの賑わいづくりやコミュニティの活性化を図り、「誇れるまち・住み続けたいまち」の進展に貢献しました。アートと日常生活の関係を中長期的なテーマとして捉え、横浜市北部地域をはじめとする市民が大人から子どもまで集い、アートと触れ合うことで、地域での生活、暮らしの場であるまちに活力を与えるような取り組みを進めました。

2 アートで子どもの育みを応援

子どもは未来の宝です。アートの力で次世代を担う子どもの成長を応援しました。豊かな感性や

創造性、表現力、コミュニケーション能力、思いやりの心、自立心の育みを応援しました。開館以来、当館の大きな柱である子どもへの取り組みをさらに充実させるとともに、学校との関係、地域との関係を深め、子どもの生活とアートの力を結びつけ、全ての子どもにアートに触れる機会が行き渡るように努めました。

3 すべての人に開かれた運営

横浜市男女共同参画センター横浜北（以下「センター横浜北」）と共に、年齢、性別、人種、国籍、障がいの有無などに関係なくすべての人を受け入れ尊重し、開かれた施設運営を行いました。ハード・ソフトのバリアフリー化のさらなる促進、誰もが参加できるアートプログラムの協働実施、障がい者によるアートの発信などに取り組みました。

（2）29年度の業務の方針及び達成目標の総括

【全体業務について】

第3期指定管理期間の中間期に当たる3年目として、試行錯誤を繰り返しつつ発展してきた基幹事業の継承に加え、時流のニーズに即した事業を新規に立ち上げることで、施設全体としての活動に厚みを付けることに注力しました。

これまでの実績と反省点を踏まえ、従前より主流となっている子どもと主婦、高齢者層に加え、青年層から中高年層（就学・就業年代）の取り込みを視野に入れた幅広い層への認知度向上を目指したアプローチを試みました。

美術（ファインアート）というジャンルを超えた、新たな芸術の動向を紹介する事で「あざみ野ならではの」創造性溢れる表現活動を幅広く育み、魅力ある横浜市北部地域のまちづくりに寄与したと考えます。

① 事業について

企画展は年間3事業。27年度、28年度と同時期に実施しました。

夏休み期間に開催した、子どもとアートを結びつける総合的なイベント「あざみ野こどもぎやらい2017」を実施しました。アニメーション作家・絵本作家7組による《アニメーション・ターンテーブル》などアニメーションのしくみを体験できる作品や近隣小学校での事前ワークショップにより子どもたちが撮影した写真を展示しました。会期中には、出品アーティストによるワークショップや、気軽に参加できる工作コーナーなど、子どもたちの好奇心や制作意欲への刺激となるような体験プログラムを提供しました。また、最終日夕刻には映像と音楽による幻想的な公演も実施しました。

芸術の秋には、現在進行形のアートを紹介する「あざみ野コンテンポラリー」として、3DCGによるアニメーション作品で注目を浴びている映像作家である渡辺豪の個展を開催しました。約1年間のフィンランド研修滞在の経験をもとに制作された、氏の最新映像インスタレーションは、多くの話題を集めました。展示会場を舞台としたダンス公演や瞑想体験など斬新な試みにも挑戦し、普段コンテンポラリーアートに馴染みが薄い層への来場誘致にも取り組みました。

新春には、現代の写真表現を紹介する企画展と横浜市の貴重な資源である「横浜市所蔵カメラ・写真コレクション」（以下「カメラ・写真コレクション」）を活用した展覧会を同時開催する「あざみ野フォト・アニュアル」を開催しました。企画展では、失踪を繰り返す父親を被写体とした写真

集を出版し注目の若手写真家である金川晋吾の個展を開催、コレクション展では「写真の中の身体」と題し、約1万件にのぼるコレクションの中から、テーマに沿ったカメラ・写真・関連資料を紹介しました。

今年度は展覧会ごとにターゲット戦略をたて、駅貼りポスターや各戸配布郵便等も導入することで、地元地域を中心に来館者数の拡大を目指しました。

アトリエ事業では、大人を対象とした「市民のためのプログラム」及び小学生以下の子どもを対象とした「子どものためのプログラム」を継続実施しました。

「市民のためのプログラム」では、油絵、透明水彩、デッサンという一般に馴染み深い分野に加え、デジタル一眼カメラ、陶芸（織部焼、志野焼）など当館の特色に沿った講座を開催し、市民の方々の日常生活に楽しみや彩を添えるお手伝いをしました。いずれも定員を超える応募があり賑わいました。

「子どものためのプログラム」では、低年齢層を対象とした「親子のフリーズゾーン」に約9,000人（計36回開催）の来場者を迎え、子どもたちをアートの入り口へと誘いました。各種ワークショップとしては、対象年齢別に絵画、紙やダンボール、スチレンボードなど日用品を用いたワークショップ等に加え、焼き物・木工やガラス加工等も含め多くの子供たちが参加しました。

「あざみ野カレッジ」では、かねてより当館に寄せられていたニーズに応える形で、アーティストや芸術分野に関わる人を対象とした連続講座を新規開設し好評を得ました。また、ヨコハマトリエンナーレ 2017 出展作家によるトークや地元地域でビール醸成に取り組む老舗酒屋への課外授業を展開するなど、幅広い題材を取り込んだラインナップで構成しました。

アウトリーチ事業については、横浜市芸術文化プラットフォーム事業への協力のほかに、当館独自の取り組みとして、横浜北部地域の小学校との連携を実施しました。

「ヨコハマトリエンナーレ 2017」開催年に際し、関連事業の実施や広報協力に取り組み、横浜北部での情報発信拠点としての役割を担いました。

センター横浜北との共催事業においては、毎月2回のロビーコンサートに加え、レクチャールームを活用した女性芸人（落語家、マジシャン、講談師、浪曲師）による演芸会や地元出身演奏者によるコンサートを行うことで、複合施設の特性を活かした事業を企画立案し、街の賑わいを創出しました。

また、開放的なロビーを活かし若手アーティストや障がいのあるアーティストの作品、及びカメラ・写真コレクションを展示し来館者に気軽に御覧いただけるようにいたしました。

引き続き、横浜北部地域をはじめとした大学等の教育機関との協働にも努めました。また、29年度も博物館実習生の受入を行い、芸術文化に関わる次世代育成への支援を行いました。

② 運営について

「ホスピタリティの向上と公平・公正」を運営の基本とし、利用者サービスの向上、バリアフリーの推進等、施設利用者や地域の利用者など、幅広い市民の意見を取り入れ、施設運営に反映させるとともに、利用者の芸術文化活動が最大限発揮できるよう、専門的なサポートを行いました。

貸館の展覧会であってもより多くの市民にご鑑賞いただき、展示する側と見る側の交流を豊かにしていくことが「まちづくり」に重要な役割を果たすと考えられることから、貸館による展覧会の広報支援をより強化し、その充実に努めました。

開館以来使用されていたエントランスの館内表示を、より来場者目線で分かりやすい表記にリニューアルしたことを始め、貸館利用の認知向上を目的とした施設利用案内チラシの新規作成、アトリエ利用プロモーション動画の作成及び公開を行いました。

貸館による展覧会の広報支援として、施設固有の広報誌「アートあざみ野」での特集やホームページ上での展覧会状況写真の紹介を拡充しました。

③ 管理について

アートフォーラムあざみ野の施設・設備の維持管理業務を総括的に担うセンター横浜北および管理委託会社と、週1回のミーティングを行うことで情報共有を図り、それを基にしたPDCAを徹底することで、施設の長寿命化や環境への負荷軽減に向けた管理を継続しました。

横浜市民ギャラリーあざみ野の専有設備等については、ギャラリーとしての高い水準を維持し、長寿命化を図るため、日常的に設備や備品の適切な保守管理を行い、利用者に影響を与えるようなトラブルや事故ゼロを実現しました。

老朽化により停止した収蔵庫内の除湿機については、横浜市と連携して迅速に対応し、障害発生を未然に防ぎました。

施設管理に関してのアンケートなどからのお客様からの声については、迅速に精査し現状の確認に努め、ご意見を反映した多目的トイレへのウォシュレット設置をはじめ、必要性を認められる事項については丁寧な維持管理を心掛けました。

当館の特色である、カメラ・写真コレクションについて、29年度は文化庁アーカイブ中核拠点形成事業「プロトタイプ部門」（事業担当機関：武蔵野美術大学）への収蔵品データ提供協力を行い、貴重な資料の活用に寄与しました。引き続き、未整理品について、計画的な調査・整理・データベース化を実施し、適切な収蔵品の保存・管理・活用に努めます。

④ その他について

同じフロアに机を並べるセンター横浜北との緊密なる連携は、横浜市民ギャラリーあざみ野が、自身のミッションを達成する上で必要不可欠であるという観点から日常的に職員間の交流や情報交換に努めました。

共同開催の形式を取る事業も多数開催し、両者が手を携え共通の施設名称である「アートフォーラムあざみ野」としての発展に努めました。

4 業務の取組との達成状況

（１）事業について

ア 市民の文化芸術活動の支援について

[取組内容]	[達成指標]	[実施内容と達成状況]
● 市民自ら行う文化芸術活動の「きっかけづくり」や継続的な活動、より専	初級者向けの基礎を習得するワークショップ、中級者向けの技術や表現の向上をアーティストから学ぶワークショップを実施	横浜北部地域に位置する市民利用施設として、市民が自ら芸術文化活動を体験することや主体的に知識獲得を行うことに対し、その一助を担う事業展開を図りました。

門的な活動をお手伝いします。 ●さまざまなジャンルの達人やプロフェッショナルによる講座やワークショップで大人の知的好奇心を刺激します。	●市民のための講座・ワークショップ □年 10 コース以上 年間参加者 延べ 800 名以上 □平均満足度 4.6 以上 生活の中にある様々なテーマをとりあげる学びの場 ●あざみ野カレッジ □アート関連 年 3 回 □地域ほか広範囲な題材 年 3 回 □年間参加者 150 名以上 □平均満足度 4.5 以上	●市民のためのプログラム 主に初心者を対象とした一眼カメラ、陶芸、油絵、透明水彩、デッサンなど幅広いジャンルの講座を企画し、自ら次のステップに踏み出す契機の提供を心掛けました。 □年間11コース開催 年間参加者数：延べ874人 □平均満足度：4.85（5点満点） ・やさしく、たのしいデジタル一眼カメラ（4/13～6/8）（計5回） ・陶芸 - 織部と志野（5/16～7/11）（計5回） ・はじめてのデッサン（9/29～12/22）（計7回） ・はじめての透明水彩（11/13～12/18）（計5回） ・はじめての油絵（1/18～3/15）（計5回） ・日用品彫刻を作ろう！（3/24）（計1回） ・ヌードクロッキー（4/12～3/28）5コース ●あざみ野カレッジ 芸術文化に限定せず、地元地域や話題の分野からのエキスパートを招き、生涯学習の場を提供することを目指しました。 新たにアート関係者向けの「シリーズ企画」を開設しました。 □アート関連 年 8 回（含：新設 5 回） □地域ほか広範囲な題材 年 3 回 □参加者数：456名 □平均満足度：4.65（5点満点） ・舞台衣装デザイナーの仕事（5/27） ・制作と発表 ヨコトリ2017参加アーティスト 川久保ジョイの場合（8/27） ・フェアリードクターに訊く 妖精学と妖精たちのいる風景（9/24） ・現代美術探求ラボ③（10/9） ・十日市場の醸成所で味わう“ここだけ”のビール
---	--	--

		(11/19) ・現代美術探求ラボ④(2/11) (中止) ※数に含まない ・「越境」する劇場「アーティストのための実践講座」(新規開設) (3/10) ・アーティストのサバイバル術(5/20) ・120分で学ぶアーティストのための著作権・肖像権入門(7/15) ・作品設置の基礎知識(8/25) ・作品売買とアート・マーケットについて知っておくべきこと(10/14) ・初対面でチャンスを掴む英会話術(3/17)
●複合施設の特徴を活かした企画展関連事業、センター横浜北との共同企画でアートフォーラムあざみ野の賑わい創出や顧客開拓をします。	様々なジャンルのアートに取り組み、賑わいと新規顧客を開拓 ○あざみ野サロン 企画展関連事業、その他 舞台系 年4回	○あざみ野サロン □事業数：年間5事業 音楽：1、映像：1、大衆芸能：2、 映画&トーク：1 ※企画展関連事業：「あざみ野ナイト」として 「あざみ野こどもぎやらりい2017」開催時に、 映像と音楽によるライブショーを開催。※後述 ・篠田太郎上映会「パラダイムシフト」(9/9) ・映画「百合祭」上映&トーク(10/22) ※センター横浜北企画 ・女性芸人そろい踏み演芸会(11/25) ・新春 あざみ野寄席(1/13) ・春にして君を想う (コンサート) (3/3)
●日ごろ文化芸術に触れる機会の少ない市民を対象としたアートの出前事業を行い、市民交流やコミュニティの活性化を図る	●地域アウトリーチ事業 □派遣型アウトリーチ 年1回 □市民協働/地域連携型 年1回	●地域アウトリーチ □派遣型：年1校、のべ4回 ・山内小学校：派遣型写真ワークショップ(6/16、6/23、6/30、7/7)、「自分の思いと写真」展 □市民協働/地域連携型 年1回 ・岩間市民プラザ：地域連携型(派遣型) フェローアートギャラリー尾崎文彦展(1/12～1/21)

ことで創造的なまちづくりを推進します。		
---------------------	--	--

イ 子どもたちをはじめとする次世代育成について

[取組内容] ● アートを通して子どもの感性を磨き、主体性を伸ばすとともに、創造の喜び、コミュニケーション力、思いやりの心を育みます。	[達成指標] 作家や大人と一緒につくる、ワークショップもある 展覧会を8月に実施 □ 「あざみ野こどもぎやらい 2017」 1回	[実施内容と達成状況] □ 夏の企画展「あざみ野こどもぎやらい 2017」(7/28～8/6)は、若手作家による展示およびワークショップと、児童が撮った写真の展示等で構成しました。 [展示室1] 「まわして動かすアニメーション・マシン」 【出品作家】あしたのんき、奥下和彦、小野ハナ、OHRYS BIRD、竹内泰人、パンタグラフ、ヨシタケシンスケ 円盤をまわすと動き出すアニメーションのしくみ《アニメーション・ターンテーブル》を使って、7組のアニメーション作家・絵本作家が制作した作品を展示しました。加えて、各作家が日頃制作しているアニメーション作品や絵本なども展示しました。 また、当館で収蔵している横浜市所蔵カメラ・写真コレクションの中から19世紀のアニメーション装置を展示し、今と昔を比較できるようにしました。 会場内に、気軽に参加できるアニメーション装置の工作コーナーを設置、当館ボランティア（あざみ野アートサポーター）と一緒に「驚き盤」づくりに挑戦しモニターで見るアニメーションとは異なる“実物感”がある体験を提供しました。 [展示室2] (1) 「手づくり写真集に挑戦！」 監修：吉野英里香 事前ワークショップ「手づくり写真集に挑戦！」の成果を展示しました。 (2) 山内小学校5年生 「自分の思いと写真」 監修：三ツ山一志 山内小学校（青葉区）との連携事業。事前アウト
---	---	--

	象) 月 1 回 □造形活動による学校支援 年 10 回程度 ②プログラムごとに対象年齢を設定し、体験することを大切にしたい幼児・児童向けの多彩なワークショップ □1 日講座 年 11 講座 □複数回(日)講座 年 2 回 □平均満足度 4.6 以上	10/28、11/18、12/16、1/20、2/24、3/24) □学校利用 年間 9 校、参加者数：193人 養護学校や特別支援学級を受入れ、アトリエでの美術造形活動プログラムを無償提供しました。 利用校：あざみ野第一小学校個別支援学級、いぶき野小学校個別支援学級、山内小学校個別支援学級、北山田小学校個別支援学級、港北小学校個別支援学級、たかつくらぶ、勝田小学校個別支援学級、若葉台特別支援学校、神奈川県立麻生養護学校 ●ワークショップ「子どものためのプログラム」 対象年齢にあわせた内容でさまざまな材料を使った絵画・陶芸・写真・モノの制作ワークショップを実施し、無意識のうちにアートを身近に思える機会を提供しました。いずれの事業も応募者多数により抽選を行うこととなりました。 □年間 15講座、21回、参加者数：747人 □1 日講座 年12講座 □複数回(日)講座 年 3 講座、9 回 □平均満足度 4.84 (5 点満点) [1 日講座] (年12講座) ・クルクル工作！(4/30) ・紙でつくろう！こいのぼりバッグ！(5/5) ・見て、さわって、描く(5/21) ・えのぐであそぼう！(6/11) ・ぷかぷかオブジェ(7/9) ・焼き物しよう！(9/18) ・アトリエの洋服屋さん(10/22) ・小麦粉ねんどであそぼう！(11/23) ・木工しよう！(12/10) ・ホチキスに挑戦！(1/14) ・ぼこぼこ版画(2/12) ・溶かしてつくろう！ガラス実験室(3/21) [複数回(日)講座] (年 3 講座) ・手づくり写真集に挑戦！(6/10、6/24、7/8) (全 3 回) ・油絵を描こう(8/19、9/2、9/16、9/30)
--	---	--

	③芸術文化面からの学校支援 ●学校アウトリーチ □横浜市芸術文化教育プログラム 3校以上 □カメラ・写真に関するアウトリーチ 1校 □教師のためのプログラム 年1回	(全4回) ・みんなでつくる あったかクリスマス(12/2、12/3)(2日間) ●学校アウトリーチ 横浜市芸術文化教育プラットフォームへの協力 □4校実施 ・奈良の丘小学校1年生(絵の具) (9/14、9/21、9/28) ・高田東小学校4年生(アニメーション) (10/16、10/17) ・新田小学校3年生(ダンス) (11/30、12/1、12/8) ・すみれが丘小学校5年生(鉄) (2/15、2/21、2/22) □1校 山内小学校5年生「自分の思いと写真」 (6/16、6/23、6/30、7/7)※再掲 □教師のためのプログラム 年間1回、参加者数:20人 横浜市立中学校美術研究会 夏期研修 「アニメーションの活動」(7/31)
--	---	--

ウ アーティスト・クリエイターの支援と創造性を活かしたまちづくりについて

[取組内容] ●新しい表現に取り組む才能豊かな新進アーティストを発掘し、紹介するだけでなく、市民とアーティストの交流の場を設けて応援したくなる仕掛けをつくる。	[達成指標] 企画展の関連事業として市民とアーティストが交流する事業(トークイベント、ワークショップなど)	[実施内容と達成状況] ●市民とアーティストが交流するイベント 企画展における出品作家と市民を繋ぐ交流会やワークショップの開催に加えて、作品展示会場を舞台としたダンス・パフォーマンスや瞑想体験の開催を通し、普段コンテンポラリーアートとの馴染みが薄い市民と作家・作品をつなぐ試みを行いました。 常設展示コーナー設置による若手アーティストや障がいのあるアーティストの紹介などにより、多くのアーティストが当館から自身の活動を発信しました。開放的な空間に自然な形でアピールされた作品の数々を、来館された市民の方々が目にする事で、他目的で訪れた人々にも、彼らの活動や作品について知る機会の提供となりました。
---	---	--

○ミニギャラリーを設置して、若手アーティストや障がいのある人たちのアート作品を発表する場を提供します。	□コンテンポラリー展と写真展会期中 年4回 ホワイエに設置した展示ケースで新進アーティストや障がいのある人たちの小品展 □ショーケースギャラリー 年4回 □フェローアートギャラリー 年4回 □地域アウトリーチ（小展示） 年1回	□コンテンポラリー展と写真展会期中 年間6回 「あざみ野コンテンポラリーvol. 8」 ・レセプション(10/7) ・葉名樺 ダンス・パフォーマンス(10/7) ・渡辺豪展×瞑想(10/28) 「あざみ野フォト・アニュアル」 ・レセプション(1/27) ・対談#1 「金川晋吾×國分功一郎」(2/3) ・対談#2 「金川晋吾×滝口悠生」(2/24) □ショーケースギャラリー 年間4回 ・碓井ゆい展(4/29～7/9) ・町田桂子展(7/15～9/17) ・木村友貴子展(9/23～12/17) ・伊佐治雄悟展(1/6～3/25) ※伊佐治雄悟展関連ワークショップ 「日用品彫刻を作ろう！」(3/24) ※再掲 □フェローアートギャラリー 年間4回 ・Vol. 26 中村真由美展(4/23～7/23) ・Vol. 27 大久保潤展(8/7～10/15) ・Vol. 28 金崎将司展(10/17～1/14) ・Vol. 29 谷村虎之介展(1/16～3/25) □地域アウトリーチ（フェローアートギャラリー） 年1回 ～尾崎文彦展「むふふなカタチ」(1/12～1/21) 岩間市民プラザ3階ギャラリー（保土ケ谷区） ※再掲
○センター横浜北との協働関係をさらに強化し、文化芸術と男女共同参画の理念を融合した事業や新たな利用者	①横浜のアーティスト、地域の方々が出演 □ロビーコンサート 年24回（ジュニアコーラス成果発表会1回を含む）	□ロビーコンサート 年間24回 (4/9、4/23、5/14、5/28、6/11、6/25、7/9、7/23、8/13、8/27、9/10、9/24、10/8、10/22、11/12、11/26、12/10、12/23、1/7、1/28、2/11、2/25、3/11、3/25に開催)

を開拓する事業を展開することで、魅力あるまちづくりにつなげます。 ○地域の人材を活用し、協働を強化します。アートサポーターの活動を拡大し、運営や広報活動への積極的な参加を促します。地元の団体やマイスターを活用した講座やワークショップを実施します。	□ジュニアコーラスワークショップ 1コース ②アーティストや障がいのある人たちのアート作品を発表・販売する場を支援 □あざみ野マルシェ/アートワゴン 年8回以上 ③男女共同参画等を題材とした創作落語の制作・発表 □「落語・講談・浪曲 三者三様 女流芸人そろい踏み演芸会」 年1回 ④アートサポーターとの協働 □ワークショップ 年2回以上	□あざみ野クリスマスジュニアコーラス2017 練習 : 11/3、11/5、11/11、11/18、11/23、 12/2、12/3、12/9、12/16 発表会 : 12/23 ※ロビーコンサートに含む □あざみ野マルシェ/アートワゴン 年9回 福祉施設の活動を紹介。障がい者が育てた野菜やカラダにやさしい食品、アートな表現がひかる作品を市民に届け、大勢のお客様で賑わいました。 ・マルシェ : 5/21、8/2、10/22、1/20 ・アートワゴン : 5/5、7/30、8/2、11/15、 1/20 □「落語・講談・浪曲 三者三様 女性芸人そろい踏み演芸会」(11/25)、入場者105名 出演 : 三遊亭粋歌(落語)、神田京子(講談)、瑞姫(浪曲)、マジック・ジェミー(マジック) □市民協働のワークショップ ※再掲 2回 ・紙でつくろう! こいのぼりバッグ(5/5) (対象年齢なし) ・みんなでつくる あったかクリスマス (12/2、12/3)(4歳以上) □アートサポーターを対象とした展覧会鑑賞会 ・横浜美術館「石内都」鑑賞会(1/6) ・横浜市民ギャラリーコレクション展2018「写真と素描でたどる横浜」鑑賞、ギャラリートーク (3/11) ■地域で活動するボランティア団体、女性起業家を紹介。市の地産地消の取り組みにも協力しました
---	---	---

○青葉区が展開する6大学連携事業、横浜市北部4区の大学と連携を図り、人材の交流やコミュニティの活性化を推進します。	⑤全館挙げてのイベント ■アートフォーラムフェスティバル 2017 への参画 ■あおば美術公募展 7月 ■青葉区民芸術祭 11月 ■大学との情報共有や事業連携を図る 随時	・アートプラザのお弁当屋さん(通年) ■アートフォーラムフェスティバル(10/22) ■第2回 あおば美術公募展(7/7-7/16) ■青葉区民芸術祭2017(11/8-11/20) ■青葉区及び横浜美術大学との共同での「フォトジェニック青葉 花と緑のフォトコンテスト」運営協力(随時) ※入賞作品写真展(8/22-8/27)(展示室2) ■大学連携 年間5校、7企画 ・城西国際大学:メディア学部による、企画展紹介映像制作と公開 3本 ＊Gallery in the Lobby ＊あざみ野コンテンポラリーvol. 8 ＊あざみ野フォト・アニュアル ・八洲学園大学:「博物館実習」実習生受け入れ ・東京藝術大学:学芸員、修復家、アーティストを対象とした近現代美術作品の最新の保存修復情報の共有 ・横浜美術大学:青葉区主催「フォトジェニック青葉 花と緑のフォトコンテスト」運営連携 ・Super Open Studio NETWORK、東京造形大学連携プログラム「アーティストとオルタナティブ」
--	--	--

エ 横浜らしい先進的な文化芸術の市民への発信について

[取組内容]	[達成指標]	[実施内容と達成状況]
●企画展はコンテンポラリーアートを中核により多くの市民に足を運んでいただけるよう「横浜らしさ」「親しみやすさ」「暮ら	□企画展「あざみ野コンテンポラリーVol. 8」(10月)	□あざみ野コンテンポラリー vol. 8「渡辺豪 ディスロケーション/dislocation」(10/7～10/29) さまざまなジャンルの表現活動に目を向けた、現在進行形のアートを紹介するシリーズ展の第8回目として、渡辺豪の個展を開催しました。2013年に第24回五島記念文化賞美術部門新人賞を受賞し、約1年間フィンランドに滞在した彼の経験をもとに制作された初公開の映像インスタレーションと写真または3DCGで描かれたプリント作品を展示し、「光」

しに身近な」をコンセプトに展開し、「誇れるまち・住み続けたまち」の進展に貢献します。 ●「ヨコハマトリエンナーレ2017」関連	□来場者3,000人以上 □平均満足度4.6以上 ■横浜北部の芸術拠点として、「ヨコハマトリエンナーレ2017」情報発信や関連事業の実施	「時間」「場所」の体験を軸に、ディスロケーション的状况を再構築、一見破綻なく成立しているように見えるもの／事の不連続性を問いかけてみました。 当展示会は、五島財団との連携によって助成を受けており、主に新作制作費用、新規プリントと額装費をカバーすることができました。これにより、当方側では丁寧な会場設営と充実したパンフレット制作に予算を投じることができ、観客への質の高い展覧会を提供することができました。 加えて、台湾のパフォーマーとのコラボや瞑想イベントなどの連携事業も展開し、普段コンテンポラリーアートに馴染みが少ない層の取り込みにも成功をおさめました。 □来場者数：3,645人 □平均満足度：4.51（5点満点）（未達） [関連イベント] ・学芸員によるギャラリートーク(10/8、10/21) ※以下、再掲事項 ・レセプション(10/7) ・葉名樺 ダンス・パフォーマンス(10/7) ・渡辺豪展×瞑想(10/28) ■ヨコハマトリエンナーレ2017情報発信 ・会期中、館内モニターでのイベント紹介ビデオ上映 ・広報誌「アートあざみ野」での情報掲載 ・関連事業 計4事業 ※全て再掲 ・世界を旅する夫婦アーティストusaginingen 映像と音楽によるライブショー(8/6) ・あざみ野カレッジ「制作発表 ヨコトリ2017 参加アーティスト川久保ジョイの場合」(8/27) ・あざみ野サロン「篠田太郎上映会『パラダイムシフト』」(9/9) ・あざみ野コンテンポラリー vol. 8「渡辺豪 ディスロケーション/dislocation」(10/7～10/29)
---	--	---

オ カメラ・写真コレクションの展示・保存・調査研究・教育普及について

[取組内容] ● コレクションを最適な環境で保存し、貴重なコレクションを劣化させることなく、次代に引き継ぎます。	[達成指標] □ データベース整備 カメラ以外：95% (カメラについては、28年度完了) ■ 「近現代美術作品の保存修復に関する研究」に参加 ■ 作品の状態確認、修復 ■ 収蔵環境の調査を実施 ■ 貸出、熟覧への柔軟な対応	[実施内容と達成状況] ● 収蔵作品の状態確認・調査・整備 作品の保管状態を点検・改善しながら作業を行いました。不正確な目録を調査、補完して修正しています。 □ データベース整備 カメラ以外：90% ■ 東京都写真美術館レクチャー（2/10）へ当館学芸員が参加しました。 ■ 写真を安全に収蔵するため、割れやすい額から外せる作品を外しました。 ■ 混載保管され潰れやすくなっていた紙資料を取出し、紙保管に適した中性紙箱に収納しました。 ■ 修復：1件 ■ 毎月1回以上 収蔵庫内環境を確認しました。 □ 熟覧：1件 □ 貸出：2件 ・画像貸出：1件 ・横浜市民ギャラリーコレクション展2018 「写真と素描でたどる横浜」への所蔵品貸出18点 ■ 情報誌「アートあざみ野」コラム掲載：4回 ■ ホームページでのコレクション公開 3月31日時点の公開点数：1220点 ■ 文化庁アーカイブ中核拠点形成事業「プロトタイプ部門」事業担当機関：武蔵野美術大学）への収蔵品データ提供協力（38点）
● コレクションを活用した鑑賞の機会を提供し、カメラ・写真ファンの要望に応えるとともに、市民	① 『フォト・ヨコハマ』の時期に合わせて、横浜市所蔵カメラ・写真コレクション&写真企画展を実施 □ 「あざみ野フォト・アニュアル」	□ あざみ野フォト・アニュアル（「フォト・ヨコハマ2018」パートナーイベント）（1/27～2/25）

に分かりやすくカメラや写真の歴史を伝え、カメラ・写真文化に親しんでいただきます。同時に、日本における写真発祥の地の一つといわれる横浜市の映像文化都市づくりに貢献します。	□来場者 3,000 人以上 □平均満足度 4.6 以上 ② テーマを設定し、ロビーに設置したケース内で紹介する小展示 □「Gallery in the Lobby」 年 4 回	現代の写真表現を紹介するシリーズ「あざみ野フォト・アニュアル」では、企画展「金川晋吾『長い間』」と「横浜市所蔵カメラ・写真コレクション展『写真の中の身体』」を開催しました。 企画展では、失踪を繰り返す実の父親を 2008 年から撮影し、社会からの理由なき離脱の中に人間の存在の意味を改めて問いかけた金川の写真を代表する「father」シリーズと 20 数年失踪した伯母（実父の姉）を撮影し、2016 年に当館で開催した「あざみ野コンテンポラリーvol. 7 悪い予感のかけらもないさ展」で初めて発表した「Kanagawa shizue」シリーズの作品を中心に、未発表作を含め構成しました。 横浜市所蔵カメラ・写真コレクション展は、「写真の中の身体」と題し、収蔵品のカメラと写真、関連機材等の中から約 100 点をご紹介します、写真の中の身体の関係がどのように展開してきたかを探りました。 □来場者数：4,310 人 □平均満足度：4.64（5 点満点） [展示] ・企画展「金川晋吾『長い間』」 ・平成 29 年度コレクション展「写真の中の身体」 [関連イベント] ・アートなピクニックー視覚に障がいのある人となない人が共に楽しむ鑑賞会（2/17） ・学芸員によるギャラリートーク（2/18） ※以下、再掲 「あざみ野フォト・アニュアル」 ・レセプション（1/27） ・対談 # 1 「金川晋吾×國分功一郎」（2/3） ・対談 # 2 「金川晋吾×滝口悠生」（2/24） □Gallery in the Lobby 年 4 回 横浜市所蔵カメラ・写真コレクション 年間 4 回 ・カメラのしくみ（4/29～5/28） ・写真と色彩（9/30～10/22）
---	--	---

	③ ワークショップや講座を通じて、カメラや写真制作に関わる理解を推進	・カメラと光量(10/26～11/19) ・カメラを持った人形たち(3/3～3/21) ■カメラや写真制作に関わるワークショップ、講座 年間6事業 [ワークショップ] ※再掲 ・やさしく、たのしいデジタル一眼カメラ(4/13～6/8)(計5回) ・手づくり写真集に挑戦!(6/10、6/24、7/8) ・山内小学校5年生「自分の思いと写真」(6/16、6/23、6/30、7/7) [出張展示及びトーク] ・横浜市民ギャラリーコレクション展2018 ・「写真と素描でたどる横浜」(3/2～18)への所蔵品貸出及び担当学芸員ギャラリートーク(3/11) [講座、イベント] ※再掲 「あざみ野フォト・アニュアル」 ・対談#1「金川晋吾×國分功一郎」(2/3) ・対談#2「金川晋吾×滝口悠生」(2/24)
--	---	---

(2) 運営について

ア 市民の文化芸術活動の支援について

[取組内容]

●施設営業

緊急に全館休館が必要な修繕が発生しないよう適切な管理に努め、広く市民に施設を提供します。

[達成指標]

□開館

営業日 347 日

休館日 毎月第 4 月曜日、年末年始

□利用料金

入場料等	無料	有料	
展示室 1	10, 500	21, 000	
展示室 2	9, 500	19, 000	
時間帯	9:00 ～12:30	13:00 ～16:30	17:00 ～20:30
アトリエ平日	5, 000	6, 000	6, 000
土日祝日	7, 000	7, 000	7, 000

□利用率の目標

展示室 1、2 とも 95%

[実施内容と達成状況]

□開館

営業日 347 日

休館日 毎月第 4 月曜日、年末年始

□利用料金

入場料等	無料	有料	
展示室 1	10, 500	21, 000	
展示室 2	9, 500	19, 000	
時間帯	9:00 ～12:30	13:00 ～16:30	17:00 ～20:30
アトリエ平日	5, 000	6, 000	6, 000
土日祝日	7, 000	7, 000	7, 000

□展示室 1：99%（半面 A:99%、半面 B:100%）

展示室 2：98%（半面 A:99%、半面 B:97%）

●文化芸術創造活動発表を行う団体等への各種支援 施設利用者の広報協力ほか専門施設ならではの支援をします。また、ご利用を検討中の方や利用抽選に外れた方への丁寧な対応をします。 ●施設提供に関する利用者サービスを実施します	アトリエ コマ単位 63% 日にち単位 93% 夜間コマ 36% ■展示構成の専門性の高いアドバイスの実施 ■広報の協力 ・展覧会情報を情報誌『アートあざみ野』で紹介 ・チラシや案内ハガキをエントランスに判りやすく配架 ・展覧会の風景写真をホームページで紹介 ■問合せへの的確で丁寧な対応、現場視察への対応 ■ホームページでの施設情報提供 ■市内外ギャラリー情報の提供 ■平成 29 年 10 月から展示室の利用単	□アトリエ コマ単位 53%（未達） 日にち単位 82%（未達） 夜間コマ 28%（未達） ※全て小数点以下四捨五入 展示室の利用率は昨年度に引き続き、高い状態で推移しました。しかしながら、アトリエに関しては、目標を達成することができませんでした。 ■展示室、アトリエの事前打合せを行い、展示方法のアドバイス、不明な点の解消や要望に応えるよう努めました。展示室内での演奏会などの要望には、当日の全館利用状況をみながら調整・実現を図りました。 ■広報の協力 昨年度に引き続き、広報誌「アートあざみ野」や施設ホームページトップに展示室、アトリエの利用を掲載すると共に、展示室については、会期中の会場写真もアップしました。チラシや案内については、常時受け入れ、館内配架いたしました。 ■可能な限りお客様の都合に合わせる形で、打ち合わせ及び現場視察に対応するように努めました。 ■ホームページ上に、分かりやすい文章表記を心掛けた施設情報を記載しました。 ■1 階エントランスロビーにて当館に寄せられた、市内外ギャラリーや文化施設のリーフレットやチラシ類を分野別に閲覧しやすい形で配架いたしました。 ■展示室利用単位変更後、円滑に貸館
---	--	---

	位を火曜日から月曜日とし、来館者が多い日曜日の使い勝手の向上 ■アトリエの新規利用者開拓と利用促進のため2つの割引を実施 夜間割引：17:00－20:30 施設利用料半額割引 学生割引：全時間帯施設利用料一律 1,000 円割引 ■利用期間中の物品預かり	業務が遂行されています。 ■「割引制度」については、残念ながら利用促進に特段の効果は得られていませんでした。特に、平成29年度「学生割引制度」については利用した団体はありませんでした。 ■随時、物品預かりを実施しました。
--	--	---

イ 利用促進、利用者サービスの向上及びアイデア、ノウハウの提案について

[取組内容] ●利用者/来館者の声を常に最前線で聞き、サービスを向上させ、利用者満足度を高めます。また、来館者だけでなく、潜在的なニーズを把握し、来館者増につなげます。 ●要望や苦情への対応、運営改善	[達成指標] □アンケートによる展示室利用者の満足度 4.6 以上 ■利用者のクレームや意見を館内職員で情報共有し、迅速な運営改善につなげる	[実施内容と達成状況] □平均満足度 展示室：4.68（5点満点） ■フリーWi-Fiの本格可動 平成28年度末に導入した施設共用部にフリーWi-Fiの本格可動を行い、お客様の施設内での利便性向上に努めました。 ■施設利用案内チラシ作成 新たに展示室及びアトリエの貸し出し案内に特化した印刷物を作成し、市内各所への配布を行い施設の周知を図りました。 ■アトリエ・プロモーション動画制作及び公開 貸館率に伸び悩んでいるアトリエ利用促進に向け、アトリエの案内動画を作成し、インターネット上に公開しました。 ■年賀タウンメール導入 施設近隣住宅5,000戸に対し、施設の知名度向上を目的に年賀状によるプレゼント付き施設案内を送付しました。 ■施設設備に関するお客様の御意見については、定例会議内で精査し、実施が必要と判断されるものについては、迅速に対応を図りました（多目的トイレへのウォシュレット導入等）。 ■管理合同ミーティングを火曜日に行い、アートフォーラム全体でクレームや意見を共有、対応策を協議しています。迅速で公平な運営改善を行っています。
---	---	--

ウ 組織的な施設運営について

[取組内容] ● 専門職員、管理・運営職員ともに適切な人材を配置 ● 適切かつ効果的な勤務体制を確立 ● 切れ目のない責任体制の維持	[達成指標] ■ 人材の配置について <table border="1" data-bbox="435 293 874 443"> <tr> <th>項目</th><th>人数</th><th>備考</th></tr> <tr> <td>館長</td><td>1人</td><td></td></tr> <tr> <td>副館長</td><td>1人</td><td></td></tr> </table> <table border="1" data-bbox="435 495 874 645"> <tr> <td>美術専門スタッフ</td><td>4人</td><td></td></tr> <tr> <td>施設管理運営</td><td>4人</td><td></td></tr> <tr> <td>常勤アルバイト</td><td>2人</td><td></td></tr> </table> ※企画展や講座等の実施に合わせた短期アルバイトの雇用あり。 ■ 勤務体制について（基本） 早番（8：45～17：30）2名 遅番（12：30～21：15）2名 （全職員によるローテーション制） ■ 繁閑に応じて柔軟なシフトを組み、職員のワークライフバランスに合わせた勤務と効率的な運営を両立させ、良質な利用者サービスを提供します。 ■ 館長・副館長不在時の代行者を明確にし、責任体制を維持します。	項目	人数	備考	館長	1人		副館長	1人		美術専門スタッフ	4人		施設管理運営	4人		常勤アルバイト	2人		[実施内容と達成状況] ■ 人材の配置について <table border="1" data-bbox="930 293 1369 443"> <tr> <th>項目</th><th>人数</th><th>備考</th></tr> <tr> <td>館長</td><td>1人</td><td></td></tr> <tr> <td>副館長</td><td>1人</td><td></td></tr> </table> <table border="1" data-bbox="930 495 1369 645"> <tr> <td>美術専門スタッフ</td><td>4人</td><td></td></tr> <tr> <td>施設管理運営</td><td>4人</td><td></td></tr> <tr> <td>常勤アルバイト</td><td>2人</td><td>短時間勤務</td></tr> </table> ■ 勤務体制について（基本） 早番（8：45～17：30）2名 遅番（12：30～21：15）2名 （全職員によるローテーション制） ■ 施設の利用状況や事業準備及び実施の業務繁閑に応じ、柔軟かつ効率的なシフトを組み、職員のワークライフバランスに合わせた勤務と効率的な運営の両立を実現しました。 ■ 館長・副館長不在時の代行者を明確にすることはもとより、緊急連絡先の職員間共有により、責任体制を明確化にしています。	項目	人数	備考	館長	1人		副館長	1人		美術専門スタッフ	4人		施設管理運営	4人		常勤アルバイト	2人	短時間勤務
項目	人数	備考																																				
館長	1人																																					
副館長	1人																																					
美術専門スタッフ	4人																																					
施設管理運営	4人																																					
常勤アルバイト	2人																																					
項目	人数	備考																																				
館長	1人																																					
副館長	1人																																					
美術専門スタッフ	4人																																					
施設管理運営	4人																																					
常勤アルバイト	2人	短時間勤務																																				

エ 本市の重要施策を踏まえた取組みについて

[取組内容] ● 適正な個人情報保護・情報公開	[達成指標] 横浜市の発信する情報や指定管理者研修会への参加等を通して重要施策を理解し、積極的に協力します。 また、当財団のコンプライアンス委員会における議論や情報を共有し、職員のコンプライアンス	[実施内容と達成状況] 経常的にコンプライアンス研修のほか、職員ミーティング等で注意喚起に努めました。マイナンバー収集にあたっては、実務に沿った研修、作業における事務所内における目隠しの徹底などに努め、個人情報の漏えい防止対策を行いました。
---------------------------------------	---	--

●人権尊重 ●環境への配慮 ●市内中小企業への優先発注	意識を高めます。 ■個人情報保護は規程及びマニュアルに基づき適切に取り扱います。 ■すべての人に開かれた施設として公平・公正な施設運営のため、人権尊重の取組みを大切にします。 ■ゴミを適切に分別し、排出量を抑えます。利用者にはゴミの持ち帰りの原則を徹底し、必要な場合はゴミ袋を有料で販売します。 ■電気とガスの使用量を前年度並みに抑制します。 ■物品購入・委託等は、アーティスト指定や市外業者のみが取り扱うものを除き、市内業者に発注します。	■個人情報の保管 施錠管理、パスワードロック ■マイナンバー対応マニュアルの新規作成、研修 ■平成28年4月1日に施行された「障害者差別解消法」の内容を把握し、来館される方々が障害の有無によって分け隔てられることなく、相互に人格と個性を尊重し合いながら共生する社会の実現に貢献する施設運営を目指しました。 ■利用者にはゴミの持ち帰りをお願いし、事務所で発生するゴミも細かく分別して再利用を促進し、排出量を抑えるよう努めました。 「アートフォーラムあざみ野（複合施設）」全体でのゴミ排出量は、3,783kg（前年3,474kg）でした。 ■空調運転など工夫し年間使用量については、昨年度並みを維持しました。 電気 対前年度比：102% ガス 対前年度比：97.9% ■物品購入・業務委託等にあたっては、有資格者名簿を参考に複数業者に見積りを取るなどし、出来る限り市内業者への発注に努めました。
--	--	--

（３）管理について

ア 施設及び設備、備品の維持保全及び管理について

[取組内容]	[達成指標]	[実施内容と達成状況]
●共用部分については、アートフォーラムの中長期修繕計画を策定し、それに基づく管理を適性の実施するとともに必要な経費	アートフォーラムでは、日常的に共用部分・専用部分の区別無く、全職員（ギャラリーあざみ野、センター横浜北、管理委託会社）が協力して、施設・設備・備品の維持管理を行います。 ■電気・空調・衛生設備・	毎週１回の管理合同ミーティングの中で、施設や設備の不具合を共有し、効率的で効果的な修繕を実施しました。 ■法定点検 実施

を負担します。 ●専有部分についても中長期的な視点に立ち、総合的な保全管理に取り組めます。	昇降機点検、建築基準法12条に基づく点検 法定通り実施 □AED設置 操作研修 年1回 □センター横浜北、管理委託会社との管理検討会 年1回 ■横浜市が策定する「維持保全の手引き」および「施設管理者点検マニュアル」に基づく点検・報告： 随時 □展示室壁面の塗り直し 年1回	業務の基準に基づく点検・清掃＝実施 □AED設置2台 ※1台はセンター横浜北所有 ・操作研修 年1回（外部研修に参加） □維持管理の検討会 年3回 そのほか毎週開催の管理合同ミーティングでエネルギー使用量削減の相談をするほか、下半期に不具合リストを作成して、修繕の優先順位や時期、対応策を検討しました。 ■設備管理業務を専門業者に委託し、横浜市が策定する手引きやマニュアル、業務の基準に沿って、専門的な知識に基づく施設管理を随時行っています。不具合は小さなうちに発見し、自ら修繕できるものは速やかに対応しました。 □展示壁面の補修・塗り直し 1回 (1/4～1/6) 電気式陶芸釜の補修 1回(8/3)
---	---	--

イ 小破修繕への取組

[取組内容] ●小破修繕については、センター横浜北および管理委託会社・設備点検業者とともに、遺漏無く早期発見、対応を行い、建物・設備の長寿命化を図ります。また、クレームの無い、快適な環境を維持します。	[達成指標] ■不具合を早期発見し、修繕必要箇所に迅速に対応します。 ■適切で効率的な維持保全及び管理により、良好な状態を保持し、クレームの無い快適な環境維持を目指します。	[実施内容と達成状況] ■建物及び設備管理業務を専門業者に委託し、横浜市が策定する手引きやマニュアル、業務の基準に沿って、専門的な知識に基づく施設管理を行っています。不具合は小さなうちに発見し、自ら修繕できるものは速やかに対応しました。 ■建物及び設備管理業務を専門業者に委託し、毎週1回の管理合同ミーティングでの現況確認を経常化しています。平成29年度も、施設利用環境における、利用者からのクレーム等はありませんでした。
--	---	--

ウ カメラ・写真コレクションの適切な収蔵、保管について

[取組内容]	[達成指標]	[実施内容と達成状況]
●貴重なコレクションを良好な状態で次代に引継ぎ、最大限活用するために、適切な収蔵、保管にあたります。	□展示室内環境は、年間通して温度 $20^{\circ}\text{C} \pm 2^{\circ}\text{C}$、湿度 $50\% \pm 2\%$ ■pH 値を定期的に測定し、測定結果に応じたケミカルフィルターを設置 □文化財喰害虫生息調査 年8回実施 □庫内点検、定期的な清掃を実施 月1回 ■東京都写真美術館、日本カメラ博物館、横浜美術館などの専門機関と協力・連携	[実施内容と達成状況] 展示室内の空調管理、収蔵庫の空調やpH管理を行い、作品の収蔵に適した空気環境を整えました。2月には、不調だった収蔵庫除湿機の交換工事も実施し、より質の高い環境を整えています。喰害虫の入り込みについても、一層気を配りました。 □展示室の温湿度管理 計画通り実施。 ■pH値を定期的に測定し、測定結果に応じたケミカルフィルターを設置しました。 □文化財喰害虫生息調査 年8回 □庫内点検、定期清掃月1回（毎月10日頃に実施） ■日本カメラ博物館等と日常的に連携し、コレクションの管理について情報共有しました。

エ 事故防止策・緊急時(防犯)の対応、防災に対する取り組みについて

[取組内容]	[達成指標]	[実施内容と達成状況]
●アートフォーラムでは、全職員（ギャラリーあざみ野、センター横浜北、管理委託会社）が、日常的に危険箇所や不審者等を早期に発見し、対処します。 ●緊急時には「利用者の安全第	■これまで蓄積してきた各種マニュアルを常に見直し、新たな危機の想定など、必要に応じた更新・改訂をしていきます。 ■安全管理マニュアルを見直し、必要に応じて更新しま	■人事異動に伴い、緊急連絡網や消防計画、機械警備マニュアルの見直しを随時行いました。 ■上半期には消防設備の取扱いと避難経路や備蓄品の場所を確認、下半期には「シナリオなき

一」と「迅速さ」を基本方針として対応します。	す。 ■常に全職員がマニュアルを理解するように定期的確認行動を図り、危機の際には「アートフォーラムあざみ野」全職員が一致して対応します。	防災訓練」を実施し、より実践的な訓練を実施しました。
●防災の取組みとして近隣の防災拠点としての役割を担います。	□センター横浜北との合同防災訓練 年2回 □帰宅困難者一時滞在施設対応訓練 年1回	□合同防災訓練 年2回：9/19、3/13 (内1回は、シナリオなき防災訓練 3/13) □帰宅困難者一時滞在施設対応訓練(備蓄食料等の確認) 年1回：9/19

(4) その他

ア 広報の充実について

[取組内容]	[達成指標]	[実施内容と達成状況]
●ホームページの内容を充実させ、最新の情報を発信します。	□ホームページ更新 週1回以上 □ホームページアクセス件数 年間50万件以上 □メールマガジン 月1回の定期配信	施設ホームページに展示室やアトリエスケジュールを掲載しています。 □ホームページ更新 週3回程度 □アクセス数 トップページ：680,532件 ページ(全てのページ)：3,121,029件 □メールマガジン発行 年26回配信 月1回の定期配信、ほか不定期配信
●より多くの市民に情報が行き渡るように様々な広報媒体を活用します。	□情報誌「アートあざみ野」 年3回以上発行 □企画展の広報 有料広告等の効果的な活用(年3回) □無料媒体(フリーペーパー、	□「アートあざみ野」 年4回発行：vol.43～46 □有料広報 年3回 こどもぎやらりい、市民のためのプログラム(講座募集)地元地域への周知を厚くする場合、直接的な効果(反応)が高い地元タウン誌での有料広報で情報発信を行いました。 秋と新春の企画展については、近隣主要駅への駅貼りポスターを実施しました。 施設近隣住宅5,000戸に対し、施設の知名度向上を目的に年賀状によるプレゼント付き施設案内を送付しました。 □無料媒体 毎月1回以上掲載

○センター横浜北との広報協力をを行い、相乗効果を発揮します。	「広報よこはま」など） 月 1 回以上掲載 ■事業内容や想定対象層等を踏まえて、効果的な媒体を選択し、コストパフォーマンスの高い集中広報を行います。 □センター横浜北との随時情報交換（年 12 回）	「広報よこはま」では、毎月当館のコーナーを設け情報発信がされました。また、地元タウン誌の情報掲載欄に都度情報掲載がされました。 ■広報よこはま、フリーペーパー、ラジオなどの無料媒体は、その時々旬な事業（企画展 3 種）やトピックス（講座、公演系）を「街ネタ」的に発信し施設の存在をアピールする目的に利用しました。 □合同広報会議については、定期開催ではなく毎週 1 回の管理合同ミーティングの際や共催事業開催時に随時行いました。正式な会議としては、10月に開催した共同主催の「アートフォーラムフェスティバル2017」開催に際し、7月、8月、9月、10月の4回開催をしました。この会議で、当日パンフレットを兼ねたリーフレットの新聞折込や館外フラッグを決定し実施しています。また、それぞれの所有する分野の広報先を持ち寄って、共催事業の告知に活用する等、施設としての活動周知に協力して努めました。
---------------------------------------	--	--

5 収支について

（1）指定管理料のみに依存しない収入構造について

[取組内容]	[達成指標]	[実施内容と達成状況]
●自主事業の一部については、指定管理料を充当せずに行います。	□収支ゼロ若しくは黒字で行う自主事業 年間 44 万円以上	□年間 1,860,500 円 「市民のためのプログラム」（年間 11 コース、参加者数：延べ 874 人）については、全体収支における受益者負担率が 102%を達成しました。
●利用料金収入を安定的に確保します。	□利用料金収入（施設・駐車場） 年間 1,295 万円以上	□年間 1,164 万円（未達）
●助成金・協賛金、現物協賛の獲得を目指します。	□助成金を 2 件以上申請。協賛金・広告料とあわせて外部資金を獲得 100 万円以上	□助成金を 3 件申請 □助成金・協賛金・広告料獲得 58 万円（未達） 企画展「あざみ野フォトアニュアル 金川晋吾『長い間』」に対し 40 万円の助成金を獲得しま

		した。また、「あざみ野コンテンポラリー」については、五島財団より、主に新作制作費用、新規プリントと額装費への助成(250万円相当)を受け開催しました。その他、広報誌への広告収入や現物協賛(レセプション用飲料提供等)を得ました。
--	--	---

(2) 経費削減等効率的運営の努力

[取組内容]	[達成指標]	[実施内容と達成状況]
○経費削減、効率的運営を行います。	■センター横浜北とも協力し、施設管理にかかる委託費を前年度並みに抑制	■建物総合管理、設備保守、警備、受付、清掃業務委託については、前年度並み(予算内)に抑えることができました。開館12年を超え、収蔵庫除湿機1台を更新するなど、他にも様々な機器や設備の更新時期が迫っていますが、今年度は小破修繕の範囲に留まっています。

6 P D C Aサイクルの確実な運用

[取組内容]	[達成指標]	[実施内容と達成状況]
●P D C Aサイクルの基本指標となる日報、月報の作成・管理を確実にを行います。	□業務日報の作成 毎日 ■月報と月締め完了確認書を作成 □モニタリング 月1回	□毎日、業務日報は、その日に起きたことを記載し、管理職まで回覧後、ファイリングしました。 ■月報及び月締め完了確認書については、遅滞なく作成されました。 □毎月1回の横浜市とのモニタリングを確実に遂行しました。
●事業計画書・事業報告書の作成・管理を行います。	■事業計画書・事業報告書の作成 事業計画に沿って成果が見える報告書を作成	■事業計画に沿った成果が把握できる報告書を期日までに作成しました。
●業務評価を実施します。	□月例モニタリング 月1回 □自己評価(仮決算含む) 年2回 □横浜市第三者評価 年1回	□毎月1回の横浜市とのモニタリングを確実に遂行しました。 □年2回 仮決算及び報告書作成時などに、業務に関する自己評価を行いました。 □29年度は、第三者評価(中間評価)対象年でした。選定評価委員の方々に、28年度の運営状況を的確に把握していただけるよう、資料作成や説明のあり方に配慮し、対応を図りました。

7 その他

[取組内容]	[達成指標]	[実施内容と達成状況]
● 市民の生命と安全を守ることが第一義として、適切な保険に加入し、万に備えます。	■施設賠償保険は館内すべてを対象とするため、アートフォーラムあざみ野としてセンター横浜北が契約し、費用については応分負担します。 ■作品借用や施設外事業、ボランティアに係る保険契約については、個別に契約し、賠償請求について対応します。	■施設賠償保険については、館内すべてを対象とするため、アートフォーラムあざみ野としてセンター横浜北が主体となり契約し、その費用については、当方側も応分負担いたしました。 ■全ての対象において、遅滞なく適正な保険に加入しました。29年度は、保険金支払い請求を行う事案は発生いたしませんでした。
● 関係法令を順守し、公的機関としての役割を果たします。	■ 現行の関係法令を遵守するとともに、法令改正に気を配り、契約等の前に確認を行います	■ 関係法令の遵守はもちろんのこと、個人情報法保護や障害者差別解消等に関する法令の改正や公布に、随時気を配り、業務遂行への反映を図りました。
● よりよい市民サービスの提供を目指し、市及び関係機関との連絡調整を行います。	■ 事故や不具合時は即日報告とし、随時共有します。	■ 事故や不具合が発生した場合、迅速なる対応とともに、管理者や関係部署へ、即日報告を徹底しました（29年度についても、甚大な事故や不具合は発生しませんでした）。

平成29年度 横浜市民ギャラリーあざみ野 事業一覧

No.	実施時期	主催・共催・協力等	事業名	会場	事業内容	入場者・参加者数 見込み(人)	実施回数
1	4月13日 -6月8日	主催	市民のためのプログラム(入門編) 「やさしく、たのしいデジタル一眼カメラ」	アトリエ、 野外撮影	初心者対象講座。カメラの仕組みや扱い方を学び、自分の撮りたい表現に近づけるように、レクチャーと実技を通じてプロの写真家が指導。 1コース(5回講座)	77	5
2	9月29日 -12月22日	主催	市民のためのプログラム(入門編) 「はじめてのデッサン」	アトリエ	静物、人物のモチーフを鉛筆で時間をかけて描くことによって、デッサンの基礎を学ぶ講座。 1コース(7回講座)	133	7
3	11月13日 -12月18日	主催	市民のためのプログラム(入門編) 「はじめての透明水彩」	アトリエ	水彩画に挑戦したい人向け。基礎から丁寧に学び、静物や写真などを題材に、毎回一枚の絵を仕上げた。1コース(5回講座)	95	5
4	1月18日 -3月15日	主催	市民のためのプログラム(入門編) 「はじめての油絵」	アトリエ	油絵を始めてみたい方のための講座。ギャラリーで道具を貸し出して絵の具や道具の使い方を学びながら静物画を仕上げた。1コース(5回講座)	98	5
5	4月12日 -3月28日	主催	市民のためのプログラム(中級編) 「ヌードクロッキー」	アトリエ	参加者が様々な画材で自主的に制作できる人気の講座。5分、10分、20分と時間をかけて、いろいろなポーズを描く内容となった。5コース(各4回講座)	375	20
6	5月16日 -7月11日	主催	市民のためのプログラム(中級編) 「陶芸-織部と志野」	アトリエ	自由闊達な表現が魅力の織部焼と白い釉薬が特徴の志野焼に挑戦する講座。1コース(5回講座)	89	5
7	3月24日	主催	市民のためのプログラム(ショーケースギャラリー) アーティストに学ぶ 伊佐治雄吾 「日用品彫刻を作ろう！」	アトリエ	ショーケースギャラリー関連ワークショップ プラスチックボトルやホチキスの針など身近なものを素材に立体作品を制作している伊佐治雄吾を講師に、その技法を用いて日用品から彫刻作品を作った。	7	1
8	【アート関連】 ①5月20日 ②7月15日 ③8月25日 ④8月27日 ⑤9月24日 ⑥10月9日 ⑦10月14日 ⑧3月17日 【地域ほか広範な話題】 ①5月27日 ②11月19日 ③3月10日	主催	あざみ野カレッジ	アトリエ他	【アート関連】 アートの世界で生きるための「アーティスト向実践講座」のシリーズをスタートし5回を開催。その他、生活の中にある様々なアートやヨコハマトリエンナーレ2017出品作家等を講師に招くなど、最新の情報を学んだ。全4シリーズ8回。 ①アーティスト実践講座「アーティストのサバイバル術」 ②同「著作権・肖像権入門」 ③同「作品設置の基礎知識」 ④アーティストトーク「川久保ジョイ」*ヨコリ連携事業 ⑤「フェアリードクターに聞く」 ⑥現代美術探求ラボVol.3「拡張する表現」 ⑦アーティスト実践講座「作品売買とアートマーケット」 ⑧同「初対面でチャンスをつかむ英会話術」 【地域ほか広範な話題】 地域の方や新しい生き方を模索する人を講師に迎え、生活を豊かにする情報や知識、活動を紹介した。3講座/3回 ①「舞台衣装デザイナーの仕事」 ②「十日市場の醸造所で味わう“ここだけ”のビール」 ※現地開催 ③「『越境』する劇場」	456	11
9	①9月9日 ②10月22日 ③11月25日 ④1月13日 ⑤3月3日	共催	あざみ野サロン	レクチャールーム	複合施設の特徴を活かし、美術以外の様々なジャンルのアートを取り上げ、アートフォーラムあざみ野の賑わい創出や新たな顧客開拓を目的としたセンター横浜北との共催企画。ヨコハマトリエンナーレとの連携企画も含む。 ①映像:アートシネマ「篠田太郎 パラダイムシフト」 ②映像・トーク:映画「百合祭」上映+トークイベント(センター横浜北制作) ③大衆芸能:「女性芸人そろい踏み演芸会」「男女共同参画」テーマ ④大衆芸能:新春あざみ野寄席「金原亭馬玉 独演会」 ⑤音楽:「春にして君を想う」ヴァイオリンとピアノのデュオコンサート	580	5
10	①6月6日 -7月7日 ②1月12日 -1月21日	その他	地域アウトリーチ事業	施設外	地域で活躍する市民と協働し、アートを通じた市民の交流、まちの賑わいづくり、コミュニティ活性化を目指した。2回 ①派遣型:写真ワークショップ「自分の思いと写真」@山内小学校 ②市民協働/地域連携型:フェローアートギャラリー「尾崎文彦展」@岩間市民プラザ	①214 ②146	2
11	7月28日 -8月6日	主催	あざみ野こどもぎやらい2017	展示室1、2	今年度は、アニメーションをテーマに子どもから大人まで楽しめる内容で展示を構成。自由参加型のワークショップ(工作コーナー)も実施。 [展示] 展示室1:「まわして動かすアニメーション・マシン」 自由工作コーナー(アニメーション装置) 展示室2:「手作り写真集に挑戦!」自分の思いと写真」 [関連ワークショップ・公演] ①「やってみよう!ゾートローブ」(7/29) ②「光と影で手づくりウサギが踊り出す!」(8/5) ③あざみ野ナイト2017「usagingen 映像と音楽のライブショー」(8/6)	3,802	1

No.	実施時期	主催・共催・協力等	事業名	会場	事業内容	入場者・参加者数 見込み(人)	実施回数
12	4月12日 -3月28日	主催	子どものためのプログラム あざみ野 親子のフリーゾーン	アトリエ	親子を対象とした、粘土・絵の具・紙であそびながら体験を育む造形の場。毎月3回 計36回	8,998	36
13	4月22日 -3月24日	主催	子どものためのプログラム 障がいのある子どもたちのための 「親子で造形ピクニック」	アトリエ	特別支援学校や個別支援学級に通う子どもと保護者を対象に、それぞれのペースで粘土・絵の具・紙の造形を楽しむ場。毎月1回 計12回	199	12
14	通年	主催	子どものためのプログラム 造形活動による学校支援	アトリエ	養護学校や特別支援学級を対象に、アトリエでの美術造形体験を無償で実施。年齢や障害の状況に合わせたプログラムを提供。年間9校	193	9
15	①4月30日 ②5月5日 ③5月21日 ④6月11日 ⑤7月9日 ⑥9月18日 ⑦10月22日 ⑧11月23日 ⑨12月10日 ⑩1月14日 ⑪2月12日 ⑫3月24日	主催	子どものためのプログラム (1日講座)	アトリエ	幼稚園・保育園の年中組から小学生までを対象に、年齢に合わせた内容で様々な手法のワークショップを展開。年12講座 ①クルクル工作！ ②紙でつくろう！こいのぼりバッグ！ ③見て、さわって、描く ④えのぐであそぼう！ ⑤ぶかぶかオブジェ ⑥焼き物しよう！ ⑦アトリエの洋服屋さん ⑧小麦粉ねんどであそぼう！ ⑨木工しよう！ ⑩ホチキスに挑戦！ ⑪ぼこぼこ版画 ⑫溶かしてつくろう！ガラス実験室	①21 ②73 ③22 ④27 ⑤22 ⑥23 ⑦20 ⑧19 ⑨18 ⑩20 ⑪16 ⑫16	12
16	①6月10 -7月8日 ②8月19 -9月30日 ③12月2・3日	主催	子どものためのプログラム (複数日講座)	アトリエ	複数回開催のなかで、時間をかけて技法を習得し、自分なりの表現に挑戦する造形講座。 年3事業、9回 ①手づくり写真集に挑戦！（全3回） ②油絵を描こう（全4回） ③あったかクリスマス（2日間）	①30 ②69 ③351	①3 ②4 ③2
17	①9月14・21・ 28日 ②10月16・17 日 ③11月30・ 12月1・8日 ④2月15・21・ 22日	協力等	「横浜市芸術文化教育プログラム」 連携アウトリーチ	各学校	「横浜市芸術文化教育プログラム」に参加し、近隣の小学校を中心に造形美術、ダンス等に関連するアウトリーチ事業を4校で実施。 横浜市芸術文化教育プラットフォーム ① 奈良の丘小学校（絵の具） ② 高田東小学校（アニメーション） ③ 新田小学校（ダンス） ④ すみれが丘小学校（金属彫刻）	771	①3 ②2 ③3 ④3
18	①10月7日 ②10月28日 ③10月9日 ④1月27日 ⑤2月3日 ⑥2月24日	主催	企画展開連トキイベント、交流会	展示室、アトリエ他	企画展における出品作家と市民を繋ぐ交流会に加えて、作品展示会場を舞台としたダンス・パフォーマンスや瞑想体験の開催を通し、コンテンポラリーアートの作家・作品とをつなぐ試みを実施。 「あざみ野コンテンポラリーvol.8」 ①レセプション ②葉名樺 ダンス・パフォーマンス ③渡辺豪展×瞑想 「あざみ野フォト・アニュアル」 ④レセプション ⑤対談#1 「金川晋吾×國分功一郎」 ⑥対談#2 「金川晋吾×滝口悠生」	400	7
19	7月31日	主催	学校アウトリーチ事業 教師のためのプログラム	アトリエ	小・中・高校の美術の先生と連携し、教育現場での次世代育成をサポートする事業。横浜市立中学校美術研究会の夏期研修として「アニメーションの活動」を取り上げ、こどもぎやらりの出品作家によるワークショップを行った。	20	1
20	①4月29日 -7月9日 ②7月15日 -9月17日 ③9月23日 -12月17日 ④1月6日 -3月25日	主催	ショーケースギャラリー	エントランスロビー	エントランスロビーに設置した展示ケースで新進アーティストの小品展を開催。年4回 ※④については、ワークショップも実施。 ①碓井ゆい展 ②町田桂子展 ③木村有貴子展 ④伊佐治雄悟展 [関連ワークショップ] ※再掲 伊佐治雄悟ワークショップ「日用品彫刻をつくろう！」（3/24、7名）	-	4
21	①4月23日 -7月23日 ②8月7日 -10月15日 ③10月17日 -1月14日 ④1月16日 -3月25日	主催	フェローアートギャラリー	2階ラウンジ	障がいのある人たちの多様な表現を展示、紹介することを通して、障がいのあるなしを超えた豊かな関係性が築かれていくことを目指した。年4回 ①vol.26 中村真由美展 ②vol.27 大久保潤展 ③vol.28 金崎将司展 ④vol.29 谷村虎之介展	-	4
22	1月12日-21日	主催	地域アウトリーチ事業 ミニギャラリー「尾崎文彦展」	岩間市民プラザ ギャラリー	フェローアートギャラリーで紹介した作家の他施設への巡回展。保土ヶ谷にある市民利用施設のギャラリーを使用し「個展」という形で市民の方々に作品を楽しんでいただけた。※再掲	-	1

No.	実施時期	主催・共催・協力等	事業名	会場	事業内容	入場者・参加者数 見込み(人)	実施回数
23	4月9日 ～3月25日	共催	ロビーコンサート vol.264～vol.287	エントランス ロビー	男女共同参画センター横浜北と共催で行う、横浜市民ギャラリーあざみ野制作事業。横浜市民広間演奏会のメンバーや地域の演奏家の出演による多彩なプログラムや、クリスマスジュニアコーラスの発表会など、ランチタイムに気軽に楽しめるコンサート。24回(月2回、第2・4日曜日+クリスマス)	2,428	24
24	11月3日 ～12月23日	主催	クリスマスジュニアコーラス	アトリエ、ロビー他	小学生対象の合唱ワークショップ。2ヶ月間歌を練習してクリスマス時期のロビーコンサートに出演。学年も学校もさまざまな子どもたちが集まって、ひとつの音楽を作り上げてゆく過程で、一緒に歌う楽しさ・音楽の喜びを知ってもらった。練習9回、発表12月23日	327	10
25	①5月5日 7月30日 8月2日 11月15日 1月20日 ②5月21日 8月2日 10月22日 11月20日	主催	あざみ野アートワゴン&マルシェ	エントランス ロビー	男女共同参画センター横浜北と共催で行う、横浜市民ギャラリーあざみ野制作事業。 ①「あざみ野アートワゴン」:アーティストや福祉施設・作業所による作品や活動の紹介 計5回 ②「あざみ野マルシェ」:障がい者の手による手芸・工芸品、地産地消の野菜や食品などを通じ、地元の市民との交流を図った。 計4回	①6,775 ②9,631 (①、②ともに当日の来館者数)	9
26	11月25日	主催	「落語・講談・浪曲 三者三様 女性芸人そらい踏み演芸会」	レクチャールーム	男女共同参画を題材とした創作落語や、女性芸人としての生き方やエピソードをトークコーナーとして披露、アートフォーラムあざみ野ならではの演芸会を実施。※あざみ野サロンの再掲	105	1
27	①5月5日 ②7月28日 ～8月6日 ③12月2、3日 ④1月6日 ⑤3月11日	主催	アートサポーターとの協働	エントランス ロビー、展示室、ほか	地域の人材を活用して子どもたちを対象としたエントランスでのワークショップや展示室での工作コーナーを運営。またサポーターを対象とした横浜美術館や市民ギャラリーへの鑑賞会を通じて相互交流の機会を設けた。 [ワークショップ] ①こどもの日イベント「こいのぼりバッグをつくろう」 ②こどもぎやらい2017工作コーナー運営 ③みんなで作るあったかクリスマス [鑑賞会] ④横浜美術館「石内都展」 ⑤横浜市民ギャラリーコレクション展「写真と素描でたどる横浜」	WS参加:424名 アートサポーター:84名	5
28	10月22日	共催	アートフォーラムフェスティバル2017	アートフォーラム 全館	男女参画センター横浜北と合同で行う、全館挙げての秋の祭典。 [当館事業] ・あざみ野コンテンポラリーVol.8「渡辺豪 ディスロケーション」 ・ショークスギャラリー「木村有貴子展」 ・フェロアートギャラリー「金崎将司展」 ・あざみ野マルシェ 秋 ・子どものためのプログラム「アトリエの洋服屋さん」 [共同実施] ・館内のクイズラリー	4,261	1
29	7月7日 ～7月16日	共催	第2回あおば美術公募展	展示室1、2	青葉ふるさと協議会および青葉区民芸術祭運営委員会との共催事業。 青葉区在住・在勤・在学の方、または主な活動拠点が青葉区内にある文化団体による、絵画・書道・文芸・華道・写真・美術工芸展示および茶席。	3,558	1
30	11月8日 ～11月20日	共催	青葉区芸術祭2017 作品展	展示室1、2	青葉区主催による芸術祭参加作品の展示会。	4,063	1
31	①通年 ②2月14～27日 ③12月7～9日 ④8月22～27日 ⑤10月28日	その他	大学連携	施設内外	大学との情報共有や事業連携を行った。年間5校、7企画 ①城西国際大学:メディア学部による企画展紹介映像制作と公開 3本 ②八洲学園大学:「博物館実習」実習生受入れ ③東京藝術大学:学芸員、修復家、アーティストを対象とした近現代美術作品の最新の保存修復情報の共有 ④横浜美術大学:青葉区主催「フォトジェニック青葉 花と緑のフォトコンテスト」運営連携 ⑤Super Open Studio NETWORK、東京造形大学連携プログラム「アーティストとオルタナティブ」	-	5
32	10月7日 ～10月30日 [関連イベント] ①10月7日 ②10月8日 ③10月21日 ④10月28日	主催	あざみ野コンテンポラリーvol.8 「渡辺豪 ディスロケーション」	展示室1、2	現在のアーティストのさまざまな表現活動を紹介する展覧会。今回は、五島記念文化賞新人賞を受賞した渡辺がフィンランドに1年滞在し制作した映像作品等を大型のインスタレーションで展示。 [関連イベント] ①葉名樺タンス・パフォーマンス ②学芸員によるギャラリートーク ③学芸員によるギャラリートーク ④「渡辺豪展×瞑想」	3,645	1
33	2月17日	主催	あざみ野フォト・アニュアル関連事業 「アートなピクニック」	展示室1	視覚障がいのある方とない方が一緒に会話を楽しみながら企画展を観る鑑賞会 あざみ野フォト・アニュアル「金川晋吾 長い間」	7	1

No.	実施時期	主催・共催・協力等	事業名	会場	事業内容	入場者・参加者数 見込み(人)	実施回数
34	①② — ③8月6日 ④8月27日 ⑤9月9日 ⑥10月7日 —30日	主催	フェスティバル連携事業 「ヨコハマトリエンナーレ2017」連携事業	アート フォーラム 全館	「ヨコハマトリエンナーレ2017」と連携し、当イベントの情報発信、関連事業を実施。計6事業 ①ヨコハマトリエンナーレ2017情報発信:会期中、館内モニターでのイベント紹介ビデオ上映 ②広報誌「アートあざみ野」での情報掲載 ③世界を旅する夫婦アーティストusaginigen「映像と音楽によるライブショー」 ④あざみ野カレッジ「制作発表 ヨコトリ2017 参加アーティスト川久保ジョイの場合」 ⑤あざみ野サロン「篠田太郎上映会『パラダイムシフト』」 ⑥あざみ野コンテンツラリー vol.8「渡辺豪 ディスロケーション/dislocation」	3,920	6
35	通年	その他	カメラ・写真の保存・修復、データベースの整理	-	・作品修復:フォト・アニュアル展示作品 1点 ・熟覧・貸出:横浜市民ギャラリーのコレクション展へ貸出18点など、随時対応 ・カメラ以外の所蔵品に関するデータベース整備:進捗90% ウェブ上での所蔵品画像公開:順次 3月31日現在の公開品目数:1,220点	-	-
36	1月27日 —2月25日	主催	あざみ野フォト・アニュアル ①企画展 「金川晋吾 長い間」 ②コレクション展 「写真の中の身体」	展示室1、2	①フォト・ヨコハマ2018のパートナーイベントとして開催。現代の写真表現を紹介する企画展では、失踪を繰り返す父親や音信不通だった叔母との関係を題材に人間存在の意味を問ひかける金川晋吾を取り上げた。 ②横浜市所蔵カメラ・写真コレクション展は、「写真の中の身体」と題し、収蔵品のカメラと写真、関連機材等の中から約100点を紹介、写真における「身体」の扱いがどのように展開してきたかを読み解いた。	4,310	1
37	①2月3日 ②2月24日 ③2月17日 ④2月18日 ⑤2月18日	主催	あざみ野フォト・アニュアル [関連イベント]	アトリエ他	フォト・アニュアル開催に伴い、トーク、レクチャー、ワークショップを実施。 ①対談1「金川晋吾×國分功一郎」 ②対談2「金川晋吾×滝口悠生」 ③アートなピクニック—視覚に障がいがある人となない人が共に楽しむ鑑賞会 ④学芸員によるギャラリートーク(企画展) ⑤学芸員によるギャラリートーク(コレクション展)		5
38	①4月29日 —5月28日 ②9月30日 —10月22日 ③10月26日 —11月19日 ④3月3日 —3月21日	主催	Gallery in the Lobby 横浜市所蔵カメラ・写真コレクション	エントランス ロビー	エントランスロビーに設置したケース内で、4回にわたりテーマを設定して所蔵品を展示。 ①「カメラのしくみ」 ②「写真と色彩」 ③「カメラと光量」 ④「カメラを持った人形たち」	-	4
39	①4月13日 —6月8日 ②6月10日 —7月8日 ③6月16日 —7月7日 ④3月2日 —18日 3月11日 ⑤2月3日 ⑥2月24日	主催	カメラや写真制作にかかわるワークショップ、講座の実施 ※再掲	アトリエ他	年間6事業を実施 [ワークショップ] ①市民のためのプログラム「やさしく、たのしいデジタル一眼カメラ」(全5回) ②子どものためのプログラム「手づくり写真集に挑戦!」(全3回) ③写真ワークショップ「自分の思いと写真」@山内小学校(全6回) [出張展示、トーク] ④横浜市民ギャラリーコレクション展2018への所蔵品貸出及び学芸員の出張ギャラリートーク [講座、イベント] 「あざみ野フォト・アニュアル」 ⑤対談1「金川晋吾×國分功一郎」 ⑥対談2「金川晋吾×滝口悠生」	471	6
40	通年	主催	情報誌「アートあざみ野」発行	-	当館主催事業・貸館情報などの広報誌を発行。 4月、7月、10月、1月(年4回発行)	-	4
41	通年	主催	Gallery on the Magazine	-	情報誌「アートあざみ野」誌上で、収蔵品をわかりやすく解説するコラムを4回掲載。	-	4
42	通年	主催	Gallery on the Web	Webページ 上	武蔵野美術大学のデータベースに収蔵品データを提供するなど、公開の幅が拡大。	-	-

平成29年度 「横浜市民ギャラリーあざみ野」 収支予算書及び報告書

収入の部

(税込、単位：円)

科目	当初予算額 (A)	補正額 (B)	予算現額 (C=A+B)	決算額 (D)	差引 (C-D)	説明
指定管理料	160,000,000		160,000,000	160,000,000	0	横浜市より
利用料金収入	9,455,000		9,455,000	8,116,960	1,338,040	展示室、アトリエの施設利用料
自主事業収入	5,112,000		5,112,000	5,457,928	△ 345,928	入場料・講座料収入のほか、助成金、事業での負担金収入を含む
雑入	4,378,000	0	4,378,000	9,853,418	△ 5,475,418	
印刷代、利用者サービス	8,000		8,000	10,040	△ 2,040	利用者サービスによる収入
自動販売機手数料	750,000		750,000	771,071	△ 21,071	飲料自動販売機。
本部繰入金収入			0	5,280,000	△ 5,280,000	支出/退職給付引当金繰入額の増加分に対応
その他（負担金等）	3,620,000		3,620,000	3,792,307	△ 172,307	駐車場利用料、施設管理の負担金収入等
収入合計	178,945,000	0	178,945,000	183,428,306	△ 4,483,306	

支出の部

科目	当初予算額 (A)	補正額 (B)	予算現額 (C=A+B)	決算額 (D)	差引 (C-D)	説明
人件費	68,794,000	0	68,794,000	71,011,862	△ 2,217,862	
給与・賃金	57,223,000		57,223,000	54,919,986	2,303,014	職員（10名）の異動、長期休暇等を含んだ実績。臨時職員常勤1名を含む
社会保険料	7,624,000		7,624,000	7,162,230	461,770	
通勤手当	1,385,000		1,385,000	1,190,288	194,712	
健康診断費	77,000		77,000	66,995	10,005	
勤労者福祉共済掛金	48,000		48,000	48,000	0	
退職給付引当金繰入額	2,437,000		2,437,000	7,624,363	△ 5,187,363	
事務費	4,098,000	0	4,098,000	4,698,999	△ 600,999	
旅費	120,000		120,000	96,994	23,006	研修、調査、事務連絡のための交通費、日当
消耗品費	446,000		446,000	600,685	△ 154,685	施設運営、事務用に係る消耗品（書籍・雑誌等は図書購入費）
会議滞在費	0		0	0	0	会議を主催する経費
印刷製本費	200,000		200,000	158,112	41,888	封筒・名刺等の印刷
広報宣伝費	200,000		200,000	349,941	△ 149,941	施設広報に関わる委託、年報作成、web経費ほか
通信費	596,000		596,000	510,051	85,949	通信・運搬にかかわる費用（郵送料、荷物運搬費、電話料金他）
使用料及び賃借料	1,296,000	0	1,296,000	1,154,212	141,788	
横浜市への支払分	4,000		4,000	124,325	△ 120,325	お弁当事業、飲料自販機の目的外使用料
その他	1,292,000		1,292,000	1,029,887	262,113	各種賃料・レンタル料、ライセンス契約、著作権使用料他
備品購入費	400,000		400,000	1,178,134	△ 778,134	耐用年数1年以上の、物品登録を要する物品（パソコン、音響照明設備、展示台等）の更新、事務室金庫、貸館用展示台、PC、収蔵庫用WEBカメラ等の新規購入
図書購入費	198,000		198,000	164,172	33,828	センター横浜北図書コーナー閲覧用専門雑誌、学芸参考図書ほか
施設賠償責任保険	77,000		77,000	77,040	△ 40	センター横浜北が契約し経費を折半
職員等研修費	100,000		100,000	41,040	58,960	研修参加（サービス介助士検定受講）
振込手数料	250,000		250,000	191,808	58,192	
リース料	0		0	0	0	300万円以上の物件のリース料
手数料	185,000		185,000	164,748	20,252	各種手数料、支払手数料
地域協力費	0		0	0	0	必要に応じて支出
その他（雑費）	30,000		30,000	12,062	17,938	必要に応じて支出
事業費	34,855,000	0	34,855,000	34,206,818	648,182	
自主事業費	34,855,000		34,855,000	34,206,818	648,182	自主事業・共催事業、アウトリーチの経費、広報関係費、事業調査費
管理費	58,150,000	0	58,150,000	55,883,625	2,266,375	
光熱水費	15,650,000	0	15,650,000	13,462,867	2,187,133	
電気料金	10,000,000		10,000,000	9,075,527	924,473	
ガス料金	3,700,000		3,700,000	2,512,742	1,187,258	
水道料金	1,950,000		1,950,000	1,874,598	75,402	
清掃費	0		0	0	0	特別清掃。日常清掃・定期清掃は、その他保全費(建物総管理契約)に含む
修繕費	2,000,000		2,000,000	1,159,026	840,974	施設・設備の修繕及び更新（センター横浜北との折半分を含む）
機械整備費	176,000		176,000	171,720	4,280	建物総管理契約の一部
設備保全費	40,324,000	0	40,324,000	41,090,012	△ 766,012	
空調衛生設備保守	2,230,000		2,230,000	2,235,298	△ 5,298	建物総管理契約の一部
消防設備保守	511,000		511,000	510,300	700	建物総管理契約の一部
電気設備保守	960,000		960,000	956,880	3,120	建物総管理契約の一部（受変電、直流電流、非常用発電設備）
害虫駆除清掃保守	265,000		265,000	0	265,000	建物総管理契約の一部⇒（収蔵庫害虫調査は芸術文化事業費に含む）
駐車場設備保全費	538,000		538,000	537,840	160	建物総管理契約の一部
その他保全費	35,820,000		35,820,000	36,849,694	△ 1,029,694	建物総管理、エレベーター、産廃物処理、植栽、自動ドア、ゴンドラ、監視カメラ、自動換気、給排水設備、電気/ガス器具、自動灌水、冷水器、シャッター、展示室・アトリエ・収蔵庫保守、隔年及び3か年毎点検・作業、不具合時の緊急点検、シックハウス対策測定
共益費			0		0	
公租公課	6,148,000	0	6,148,000	5,634,322	513,678	
事業所税	57,000		57,000	0	57,000	
消費税	6,018,000		6,018,000	5,487,400	530,600	
印紙税	73,000		73,000	90,200	△ 17,200	
その他（法人事業税）			0	56,722	△ 56,722	
事務経費（計算根拠を説明欄に記載）	6,900,000	0	6,900,000	6,900,000	0	
本部分	6,900,000		6,900,000	6,900,000	0	間接事務費。総支出の約4%
当該施設分			0		0	
支出合計	178,945,000	0	178,945,000	178,335,626	609,374	
差引	0	0	0	5,092,680	△ 5,092,680	